

峰ヶ丘会報

題字 松澤 康男 会長

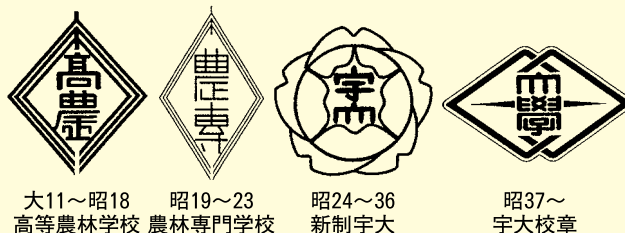
第156号 2018 (平成30). 10. 1



改修後の農芸化学実験棟

CONTENTS

登録有形文化財・登録記念物	_____	2
会長・副会長就任挨拶	_____	3
理事長就任挨拶	_____	4
退職の挨拶	_____	5
新任教員挨拶	_____	6
支部総会	_____	7
クラス会	_____	9
学生支援制度報告	_____	14
平成30年度理事会報告	_____	15
支部長一覧	_____	17
お悔やみ	_____	18
決算書・予算書	_____	19
お祝い・寄贈図書	_____	20
編集後記	_____	20
農学部100周年記念事業(仮)について	_____	21
こんなことやってます	_____	22



MINEGAOKA NEWSLETTER No.156
The Alumni Association
Faculty of Agriculture
Utsunomiya University
 Utsunomiya 321-8505 Japan
 E-mail:minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp

宇都宮大学「峰ヶ丘講堂」が登録有形文化財に！

平成29年6月に、峰ヶ丘講堂が登録有形文化財として登録されました。このことを受け、宇都宮大学は、峰ヶ丘講堂玄関脇に「有形登録文化財」登録プレートを設置し、また、平成30年1月15日に、登録プレート除幕式を行いました。石田学長と同窓会長により除幕され、登録プレートがお披露目されました。

和賀井同窓会長（現同窓会顧問）は、「戦災や農学部本館火災でも奇跡的に被災を逃れた。一時期講堂としての使用ができない時期もあったが、大学と協力し保存に努めたおかげで今回の文化財登録につながった。誠に感慨深い」と喜びのコメントをされました。



修復後の講堂



修復前の講堂



左から久保理事、池田理事、石田学長、和賀井同窓会長、藤井理事（平成30年1月15日）



フランス式庭園が、登録記念物（名勝地）に！

昨年6月、登録記念物（名勝地）として登録するよう文化審議会から答申があった本学「フランス式庭園」が、平成29年10月13日付けで、正式に登録記念物（名勝地）として登録されました。

フランス式庭園は、宇都宮大学農学部の前身である宇都宮高等農林学校創立初期に整備され、宇都宮高等農林学校の伝統と面影を今に伝えています。



（左）1940年頃のフランス式庭園と高等農林学校本館（右）現在のフランス式庭園



会長就任挨拶

峰ヶ丘同窓会会長

松澤 康男 (農昭41卒)

峰ヶ丘同窓会々員の皆様方におかれましては、益々ご清栄のうちにご活躍のことと思います。

私は、先に開催された平成30年度理事会において峰ヶ丘同窓会の会長に推挙され、その職を謹んでお引き受けすることにいたしました。

秋田県横手市の在郷で育った私は、昭和37年(1962)に農学科に入学し、古ぼけた姿川寮で学生生活を始めました。自室の隅からは竹が生えてくるほどでした。卒業期の就職戦線に敗れ、その年度末を迎えたころ、大学院農学研究科(修士課程)が新設されることになり、早速に入院しました。

院生生活はアツという間に終わり、再び就活に努めましたが、ほぼ惨敗でした。昭和41年の2月になった頃、斎藤清教授から畜産学講座で助手の採用を予定していると告げられ、「これだ」と思いました。かくして、昭和43年(1968)の6月1日付で文部教官「助手」に採用され、私の教員生活が始まりました。研究・教育・社会貢献の業績が僅少でしたが昭和52年に助教授に、平成2年には教授に昇任することができました。この間、金子幸雄名誉教授と房相佑教授と共同・協力しながら業務にあたり、平成20年(2008)

に停年退職をむかえることができました。

停年になってからは、ほぼ毎日、宇大のコートをお借りして、OB、OGの皆さんと早朝テニスを楽しんで(苦しんで)います。6年間の学生生活、40年間の教員生活の後、私の峰ヶ丘参りは、まだまだ続くことになったのです。

峰ヶ丘同窓会は、高等農林時代の昭和3年に結成され、「会員相互の親睦」と「母校発展への寄与」を目的にかかげて事業等を展開してきました。「峰ヶ丘会報」はすでに第155号にまで及び、また「会員名簿」は4年ごとに刊行されて平成29年版が発行されています。

宇都宮高等農林学校が創立されてから既に95年が経過しました。この間、峰ヶ丘同窓会は、農学部と共催して50、70および90周年記念式典と事業等を、それぞれ昭和47年、平成4年および平成24年に行いました。「農学部50年史」が編纂されて以降、大学・農学部は大きな変革期をむかえました。この間の変遷を取りまとめるために同窓会は編集委員会(津谷好人名誉教授委員長)を設け、平成29年6月に「農学部創立90周年記念史」を刊行しました。その編集後記に津谷編集委員長は、「90周年記念史は、100周年記念史に向けた記録」と明記されています。峰ヶ丘同窓会が目指すべき当面の課題をご教示していただいたものと思っています。

山口幸志副会長(畜46卒)をはじめ役員の皆様と共に、母校宇都宮大学農学部の発展と同窓会々員相互の親睦と交流をめざして努力して参りますので、同窓会々員各位のご支援とご協力を切にお願いします。



副会長就任挨拶

峰ヶ丘同窓会副会長

山口 幸志 (畜昭46卒)

この度副会長に選任されました。自己紹介と同窓会に対する考えをご披露し、挨拶とさせていただきます。

わたしは、団塊の世代のど真ん中昭和23年、宇都宮市の東部日清原村に農家の跡取りとして生まれました。昭和39年卒業時の清原中の高校進学率は5割に満たない水準でした。

そんな中で大学に入学できたのは、楽に通学できる距離に、費用のかからない国立大が、農学部をメインに存在したことでした。同じようなことを言う人は県庁の先輩方には少なくありません。ちなみに昭和46年卒業当時の大学短大の卒業者の割合は概ね25パーセントと記憶しています。

昭和46年から米の生産調整が始まることから、ある種の農業に対する不安感もあって県庁に就職し、兼業農家になりました。

当時の大学は、それまでの高校と違って、勉強をしないでかっこいいことを適当に言い合っている感じでしたが、今になって考えてみれば、あの経験の有り無しが高卒と大

学卒の違いかなと思うことが多くあります。

県庁に畜産職として就職し、平成10年の那須の大水害時に那珂川から太平洋まで流された牛の処理、同15年栃木県でBSE(いわゆる狂牛病)が発生した時の対応、16年の5年毎に皇族を招いて開催される第12回全日本ホルスタイン共進会の開催等、栃木県政史に残るような事件に大きく関与することができました。

母校からは専門職としての知識を得ただけではなく、行政を進める中で関係者の中での同窓生の協力等、様々な面でお世話になったと思っています。

県庁をやめるころに、大型農家へ施策を集中させようとする品目横断的経営安定対策という政策が出て来たことから、経済学部に行った長男には農地を誰かに貸し出し、財産管理をすればいいと思っていたところ、宇大の農学部に行った三男が農業をやると言い出しました。

今農業を本格的に始めれば、孫子の代まで農家でいられると思い、我が家の将来を三男に委ねることにしました。彼はアルバイトで知り合った農学部の後輩と結婚し、農作業の人手が必要な時は宇大生をアルバイトで雇う等、母校と濃密な関係を続けています。

このように親子二代にわたって学べた宇大の同窓会副会長になるのも何かの縁と、同窓会の副会長の役割やできることを学び、模索しながら同窓生の活躍や同窓会の発展のために微力ながら尽くしていきたいと考えております。

理事長就任挨拶



宇都宮大学農学部同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。この度、常任理事会理事長にご指名いただきました、林学25回卒の田坂聡明と申します。農学部同窓生教員の最年長ということでの指名ですが、会員の皆様の中では、まだまだ若輩かと思えます。会長・会員の皆様のご指導のもと、同窓会運営に努めて行く所存ですので、宜しくご指導の程お願い申し上げます。

さて、今年は宇都宮でも7月はじめから、厳しい日差しが照りつける日々が続いてきましたが、大学では仏式庭園や英式庭園など、旧講堂を取り巻く樹木の緑陰効果のおかげで、市街地に比べしのぎやすい環境が保たれてきています。旧講堂といえば、同窓生の皆様の多大な協力をいただき改修・整備した後、「峰ヶ丘講堂」と名称を改め学内の諸行事に活用されてまいりましたが、この度、国の有形文化財第09-0234号として登録されるに至ったことをご報告致します。改修後の講堂の姿は、「NHKの朝ドラ」など、テレビや映画に度々登場しており、目になされた方も多きこととは思いますが、同窓会やオープンキャンパス、ホームカミングデーなどの機を捉えて、是非大学へお越しになり、直にご鑑賞いただければと思います。是非ご一考下さい。

さて、宇都宮大学の近況はというと、かつてのように農学部学生が下駄をならして学内を闊歩するような、バンカラで自由闊達な学生達の姿は消え、どこにでもある大学へと方向

峰ヶ丘同窓会理事長 田坂 聡明 (林昭52卒)

を転換しつつあるような印象を受けます。特に、独立法人化以降の大学予算の締め付けや、大学生き残りのための無益な組織改革の影響は大きく、大学の自治や自由な気風などは過去のものとなりつつあるところではあります。かつてのように教員と学生が仏庭に集い、酒を酌み交わしながら自由に意見を交換する光景など今では望むべくもありません。

特に最近では、大学の生き残り策と称した無意味な大学の序列化や、業績主義化が必要以上に進んだことで、大学教員の研究志向が進み、教育がおろそかにされつつある様に見受けられます。また、農学部では、2016年にスタートした5学部体制のあおりを受け、学部・学科の規模が縮小されており、さらに現在進められている新大学院構想では、農学研究科自体が実質消滅し、全学を一つの研究科にまとめる体制が取られるなど、大きな転換の時期を迎えております。これらの改革を前進と見るかどうかの判断はここでは述べませんが、長年大学を見てきた教員としては寂しい限りの出来事です。

このように大学・学部的情勢は、今非常に速い速度で変化しつつありますが、農学部創立100周年を機会に、もう一度農学部の原点を見直し、同窓会会員の皆様のお知恵をお借りしながら、いま同窓会がなすべき使命を考えていきたいと思っておりますので、皆様にはより一層のご協力・ご教示を賜りますようよろしくお願いいたします。

新入生歓迎会の開催

平成30年度農学部新入生歓迎会が、4月9日(月)午後4時30分から、峰ヶ丘講堂で開催されました。混声合唱団の大学歌斉唱に始まり、会長挨拶、同窓会の説明、夏秋学部長の挨拶など、例年通り盛大に行われました。先輩の挨拶は、生物資源科学科2年の草島萌さんから、在学中にいろいろなことにチャレンジして欲しい、たくさんの人と交流してほしいと、学生生活についてのアドバイスが伝えられ、新入生は真剣に聞いていました。講堂での開催は、今回が初めてでしたが、講堂独特の温かい雰囲気の中で、大変和やかな会となりました。



退職の挨拶



生物資源科学科 昆虫機能利用学研究室
川崎 秀樹

宇都宮大学に赴任して38年間、短いようでも様々なことを体験してきたことが思い出されます。赴任当時は、農学科・養蚕学研究室、名前からして今との違いが浮かび上がってきます。当時は、1学年45名で、女子学生は3名程度しか居なく、養蚕学実習も朝、昼、晩と3回、土日関係なく行われていました。とんだところに来たもんだという思いもなく、どうやって自分の時間を確保するかということを考えていました。働きながら博士号を取得することも義務付けられていました。養蚕業を背景に、家蚕の発育という観点から、翅原基の発達をテーマにしました。当時注目されていた遺伝子の発現、ホルモンの働き・定量、細胞・器官培養といった事柄を学びながら研究を進めました。生物学の発展は技術の発達と密接に結びついており、如何に自分の研究に新しい技術を取り入れていくかが研究の進展を左右します。私の研究も、形態観察、器官培養、ホルモンの定量から遺伝子工学の手法を用いる方向にシフトしていき、現在はカイコノゲノム情報も取り入れた遺伝子発現の調節の解析がメインのテーマとなっています。研究を始めた当初からは考えられないようなことが可能になっています。

2年前から、恩返しを兼ねて公開講座を開始しました。私の研究と関わりのある内容、関心を持ってきたことなどを地域の人と分かち合いたいと考えて始めました。普段読み進めないような本も必要に迫られて読んだり、自分の考えを整理できたりと個人的なメリットもあります。現在まだ荷物の整理中ですが、読む本の分野を広げたり、野菜を作ったりしています。野菜作りも種類が多いとそれぞれに育ち方や手入れの仕方が異なりなかなか飽きません。しかし、最も飽きないことは、論文を読むことのように、続けていきたいと考えています。末筆ですが、宇都宮大学が、地域と共に生きていけること、社会を担っていける人材を育てていけること、同窓の方達のご健康を祈ってペンを置きます。



生物資源科学科 動物機能形態学研究室
杉田 昭栄 (畜昭51卒)

平成元年に母校である本学に着任以来、思えば29年の月日が過ぎ、定年を迎えることができました。農学部在職中を振りかえってみますと、①30代～40代で学生諸君と一緒に実験をし、結果の喜びや失敗の悔を共有していた頃、②各種委員会等で学務運営、広報活動、入試などの学部運営へのかかわりで責任がでてきた40代後半から50代半ばの頃、③さらには50代後半からの学部はもとより全学運営への関わりの頃と、大きく3つのステージがあったように思います。その間、多くの先輩と同僚に恵まれ本日はあると思っています。一方、多くの学生と出会うことができました。出会いの数だけ人間模様という個性に出会うことになり私自身にとっての教育力、研究力の肥やしになりました。多くの研究も展開できました。学生諸君がやりたいことをテーマに位置づけたら研究対象の動物もネズミ、モグラ、カラスなどなんでもありという様になったわけです。しかし、その分こちらも指導上勉強をせざるをえなくなります。おかげ様で、思いがけない発見や成果にたどり着くことができました。いま振り返ってみますと、教壇に立ちながら縁があったその都度の学生に教えられてきたのだということを噛みしめております。その学生の個性が育まれる研究室づくりは一人で作るより世代のやや異なる複数の教員が上手く連携してこそ成り立つものと考えます。制度上の小講座はもはやなくなっていますが、対象あるいは手法の括りで教員同士の連携を豊かにし学生が多くの知に触れる機会が多い大学であり続けることを願っています。昨今、さまざまな制度を活用しながら農学関連の若い教員も少し増えていますので今後の農学部の活躍を楽しみにも感じております。

最後になりますが、充実した教員生活を過ごすことができました。この紙面をお借りしまして、皆様に心より御礼を申し上げますとともに、本学への支援活動を続ける峰ヶ丘同窓会の益々の発展を祈念いたします。

今年度定年退職予定の教員

平成31年3月をもちまして、以下の教員が退職されます。平成31年3月までの連絡先は、以下の通りです。

・居城 幸夫先生：附属農場 0285-84-1254 ijiro@cc.utsunomiya-u.ac.jp

新任教員あいさつ



こうやま たくや
神山 拓也

所属・職種：農学部 生物資源科学科
助教
専門：作物学、植物生理生態学

2017年12月に農学部生物資源科学科に着任しました神山拓也と申します。高校卒業まで東京都国分寺市で過ごし、名古屋大学農学部に入學し、同大学院生命農学研究科で博士号（農学）を取得しました。博士取得後、同大学院環境学研究科で1年、教育に携わり、農研機構で2年半弱、研究に従事しました。この度、宇都宮大学助教として教育・研究に従事する機会を頂きました。

名古屋大学で、私は、つる性植物クズの生理生態とそのクズを用いた畜舎の循環型緑化技術の冷却効果に関わる研究を行いました。また、当時の研究室の恩師に根系の機能について教わりました。博士取得後は、土壌中のリンを如何に効率的に吸収するかに関心を持ち、農研機構では、圃場でのダイズへのアーバスキュラー菌根菌接種試験や、根系と菌根菌共生に関わる研究を行いました。私は、これまでの研究生生活の中で大きく研究分野を変えてきましたが、一貫して、環境と植物との関係を知ることで、環境調和型の農業技術の開発に貢献したいと考えております。今後は根系と土壌環境との関係について研究を進めていきます。

教育面で、私は、名古屋大学で、異分野融合で現場に入り、地域住民・行政との議論や現地調査を通じて、現場で起こる問題点と新たな解決策を提示するという臨床環境学研修の運営に携わりました。宇都宮大学の地域の現場に近いという立地を生かし、このような授業を発展させ、地域で起こる課題の診断・処方のできる人材教育をしていきます。

今後とも、研究・教育面でご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いいたします。



いけだ ひろき
池田 裕樹

所属・職種：農学部 附属農場
助教
専門：園芸学

2017年9月に附属農場の助教として着任いたしました。愛知県名古屋市で育ち、名古屋市内の高校を卒業後、東北大学農学部に入學し、大学院農学研究科で博士号（農学）を取得するまで在學しました。学位取得後は米国フロリダ大学、および国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センターでの研究を経て、宇都宮大学農学部附属農場で勤務することになりました。

私の専門分野は園芸学で、これまではトマトやタマネギといった野菜の生理生態に関する研究を行ってきました。東北大学とフロリダ大学では、トマトの果実に含まれる糖や揮発性成分、およびトマトを中心とした果菜類における重要な生理障害である尻腐れ果の発生に関する研究など、果実の品質に関わる形質について、遺伝子レベルで研究を進めてきました。東北農業研究センターでは、タマネギにおける新たな作型や新品種の開発に向けた基礎研究として、可食部（りん茎）が肥大する機構について研究を行ってきました。いずれの作物も栽培に大規模な圃場が必要で、作物の栽培環境が充実した附属農場に着任することができ、非常に嬉しく思っております。

着任してから1年ほど講義や農場実習を行ってきましたが、宇都宮大学農学部には素直で真面目な学生が多く、学習や研究に対する意欲も非常に高い印象を受けました。学生の皆さんに充実した学びや研究環境を提供できるよう、日々努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成29年版会員名簿について

「平成29年版会員名簿」が、平成29年12月に発行されました。
ご購入ご希望の方は、以下事務局までご連絡ください。
なお、郵送ご希望の場合は、郵送料510円がかかります。

販売価格：会員3,700円、会員（会費未納）6,000円

峰ヶ丘同窓会事務局 TEL：028-649-5400

月・水・金 9：00～17：00



支部総会（6支部）

全国の支部活動のご紹介です。同窓生の皆様には各県支部に入会頂き、同窓生のつながりを深めて頂きたいと思っております。お問い合わせは、P18の支部長一覧をご参照下さい。

**HOKKAI
DO**

北海道支部総会

平成28年度

平成28年9月10日、札幌市中央区K K Rホテル札幌にて、平成28年度北海道支部総会が開催されました。吉田昭支部長、今橋正三郎副支部長、三浦研一道央担当副支部長のほか、12名の出席でした。

議事の終了後、農業土木学科25年卒業の大原芳夫支部顧問が、7月12日に亡くなられたことが報告され、その後は大原顧問を偲ぶ懇親会となりました。大原顧問は、財団法人北海道農業近代化コンサルタントの理事長として、長年、北海道農業の発展に尽力されましたが、支部においても中心的な役割を果たされました。

支部長を務められた後も、顧問として支部の行事には欠かさず出席され、後輩からの相談や、公私にわたるアドバイスなど、面倒見の良い、頼りがいのある先輩でした。総会恒例の高等農林校歌は、いつも大原顧問の音頭とりで始まりました。

総会は、初めて高等農林校歌のない、大学校歌だけの会となりましたが、参加者全員、心を込めて斉唱して閉会となりました。（事務局 高橋 淳 農経52年卒）



平成28年9月10日 平成28年度宇都宮大学農学部峰ヶ丘同窓会北海道支部総会 於 K K Rホテル札幌



大原元支部長2017年7月12日ご逝去されました。
謹んでお悔やみ申し上げます。

IBARAKI

茨城県支部総会

平成29年7月8日(出)に水戸市の「ホテルレイクビュー水戸」において会員44名が出席して茨城支部総会を開催しました。

菊池正蔵支部長（農学科昭和46年卒）の挨拶に続き、来賓としてお越しいただきました演習林長で農学部教授の飯塚和也先生（林学科昭和58年卒）から、大学の近況報告と

ともに御祝辞をいただきました。

総会では、前年度の収支決算報告、役員の変更について説明し、承認されました。

また、今回、新たに会員となられた3名の方の紹介も行いました。

出席者全員で記念写真を撮影した後、野澤稔先輩（農業経済科昭和36年卒）の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。久しぶりに逢えた喜び、さらに大学時代の思い出やお互いの近況の話で大いに盛り上がり、時間が過ぎるのを忘れてしまうほど、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

大内 正光（農業開発工学科平成3年卒）



平成29年度宇都宮大学農学部峰ヶ丘同窓会 茨城支部総会

**YAMA
NASHI**

山梨県支部総会

「峰が丘同窓会山梨県支部」の平成29年度総会が8月24日、午後6時から、甲府市内のホテル「談露館」において、盛大に開催されました。当日は、同窓会本部理事である森林科学科教授の田坂聡明先生をお迎えし、『大学の近況』と題した総会のなかでご講演を行っていただきました。

総会は、加藤正蔵新幹事長（新林学16回卒）の開会挨拶に始まり、平成29年にご逝去された2名の同窓生に黙祷を捧げ、ご冥福を参加者一同でお祈りいたしました。その後、新会長の武川仁氏（旧林25回卒）のあいさつ、新役員を紹介に続いて、事務局からの28年度事業報告、29年度事業計画等の報告を行い、満場一致で承認されました。続いて、顧問である浜武人（旧林23回卒）の乾杯により祝宴に移りました。

懇親会では、ご来賓の田坂聡明教授を囲み、大学の近況



や峰が丘の思い出話などに花が咲き、恒例のピンゴ大会で大いに祝宴は盛り上がりました。また、本県の少子・高齢化やリニア中央新幹線の影響、農林業の将来などの山梨の課題談義のほか、日頃の悩み、心配事などに対して、同窓会の会長をはじめとする先輩の方々からの温かいアドバイスや活躍を期待する声が、会場のあちらこちらから聞こえ、同窓会ならではの温かい雰囲気と一体感、団結の強さを感じました。

祝宴も進み、名残惜しい雰囲気でしたが山口泰新副会長の音頭で大学と同窓会、会員の発展を祈念して万歳三唱し、次回の再開を固く誓い、同窓会を終了しました。

幹事 田邊 幹雄（新入学31回卒）

袴を行い、懇親会へと移りました。懇親会では各会員とも年齢差を感じさせない飲みっぷりで盛り上がり、峰ヶ丘時代の思い出やお互いの近況など話題に花を咲かせ楽しいひと時を過ごすとともに、宇都宮大学歌を声高らかに大合唱し、来年度の再会を誓い散会となりました。

なお、30年の総会は郡山市で同時期の開催を予定しておりますので、県内在住の同窓生の皆様の多数の出席をお願いいたします。

最後にご来賓としてご出席いただきました安藤先生、並びに同窓会本部事務局に御礼を申し上げます。

（事務局長 農S50卒 高梨 公）



AKITA

秋田県支部総会

11月25日、秋田市にて開催いたしました峰ヶ丘同窓会秋田県支部総会におきましては、本部より小笠原勝先生を派遣いただくなど特段のご配慮をいただき、ありがとうございました。

総会では、学内の近況について、小笠原先生のお話もあり、お陰様をもちまして、参加者25名と少人数ながら、会員一同、旧歓を暖め、大変楽しい時間を過ごすことができました。重ねてお礼申し上げます。

今後とも、当支部活動に対し御指導を賜りますようお願い申し上げますとともに、同窓会本部の皆様のご多幸をお祈りいたしまして、失礼ながら書中をもってお礼とさせていただきます。 秋田県支部 支部長 保坂 進



TOYAMA

富山県支部総会

平成29年8月4日(金)、富山市内の「シャトー（とやま自遊館内）」において会員12名の参加（前年度7名）により、富山県支部同窓会を開催しました。今年度は20年以上振りに参加頂いた方や初参加の方もあり、近年稀にみる多様な顔ぶれとなりました。

総会に先立ち、5月にご逝去された國分氏（林学科昭和24年卒）に黙祷を捧げた後、横山支部長（農学科昭和49年卒）の挨拶により総会が始まりました。前年度の決算報告の承認を受け、支部規約の説明を経て総会は終了しました。

記念写真を撮影した後、古瀬悟副会長（農業経済学科昭和55年卒）の乾杯の発声により懇親会が始まり、大学時代のサークル活動での思い出話、仕事や趣味の話に花が咲き、楽しいひとときを共有しました。支部長の中締めにより名残惜しみつつも、来年のさらなる参加人数増と再会を約束し、盛会のうちに終了することができました。

写真：右手前反時計回り 大野、高平、上江、梅原、深澤、並川、舛崎、古瀬副支部長、横山支部長、天野、早川副支部長、亀田（敬称略）

（幹事 森林科学科平成8年卒 亀田 政宏）



FUKU SHIMA

福島県支部総会

福島支部総会は平成29年11月23日(木)に福島市「フロンティア」において、43名の出席のもと盛大に開催されました。

今までは土曜日の開催としてきましたが、初めて勤労感謝の日の開催となりました。

総会では、後藤達夫支部長（農経S46卒）の挨拶に始まり、来賓として同窓会本部から出席いただいた、安藤益夫先生から総会開催に当たってお祝いの言葉をいただきました。

総会ではスムーズな議事進行により、支部活動経過、収支決算報告が承認されました。

総会終了後、恒例の記念撮影に移り、続いて、安藤先生から大学の近況について報告があり、峰キャンパスから遠ざかっている会員からは近年の大学の変貌ぶりに感嘆の声が上がっていました。

続いて、この一年で鬼籍に入られた6名の先輩諸氏へ黙

クラス会 (14クラス会)

全国のクラス会のご紹介です。毎年たくさんのクラス会が催され、ご寄稿いただいています。紙面の都合上、写真は1枚、原稿は800字までとさせていただきます。何卒ご協力のほどお願い致します。

1 宇都宮大学農学部林学科第12回 クラス会 (昭和39年卒業) クラス会「濁り酒会」

大学卒業から半世紀余り、かつて森林実習やハイキング・スキーなどで青春を謳歌した朋友が那須高原に集まった。今回の参加者は会員11名、夫人5名、計16名で、女性の参加がきわだった。

祝宴では、当時の学園前夜祭で好評を博した「スーダラ節」を滑稽な振り付けで歌い盛りあがった。最後に林学科の歌を合唱して往時を偲んだ。

翌日の「森林実習」では、ちょうど満開の八幡のつつじ群落や新緑の那須平成の森を探索し、鈴木文益講師の講義で締めくくった。(幹事 増子 博)



2 昭和44年農芸化学科卒 クラス会 同窓会開かる

昭和44年農芸化学科卒同窓会が11月17日18日塩原温泉で16名の参加により開催されました。同窓会は一昨年の諏訪温泉での開催以来二年ぶりとなりました。今回は、学生時代に皆で酒を飲み交わした塩原の温泉、と紅葉、そして翌日の昼食をホテルランチにしようというテーマで開かれました。

11月中旬の時期を選んだのは、11月15日は孫の七五三祝いが重なってはいけなそうと考えましたので、紅葉にはやや遅く、残り紅葉となってしまいました。17日は好天でしたが、18日は雨天の予報でもみじラインが雪になってはいけなそうとして行程を変更せざるを得ないと思いましたが、参加した皆さんの強運に助けられ、無事雨にも降られず、鬼怒川温泉に抜けられました。龍王峡の観光を予定していましたが、膝の痛みで悩んでいる方もおり、予定を変更しペゴニア園を鑑賞し、昼食会場である日光市内のホテルに一路向かうことになりました。今日のランチは、日光名物の湯葉御膳でした。

皆さん、旅館での朝食を十分召しあがられたにもかかわらず美味しく完食されました。今回の同窓会では、皆さんお酒は控えめでしたが食欲旺盛で日頃の元気が良く伺えました。食事のあと、次回を、来年群馬県での再会を約束し解散しました。次回には、今回参加できなかった同窓生

も是非参加して戴き、楽しい同窓会にしましょう。

文責 柳澤 章



3 人生100年時代への出発 クラス会 農学科第7回生 (S.34年卒)

平成29年11月15日に、鹿沼市栃窪にあるホテル・ニューサンピア(元厚生年金施設)に宿泊した。毎回のように「今年で最後…」と云いながら、「顔合わせができる間は集まろうよ!」を合言葉に、ここ数年は恒例の行事として、宇都宮を中心に同期の集いを持ってきた。(いつも「大学歌」を歌っています。)

フレイル、サルコペニア等、超高齢社会に生きる我々が、健康寿命を保ち続けるために必要な虚弱体質・筋肉減少体質からの脱出が大切なことを学んだり、野鳥を追って貴重な生態写真をカレンダーにまとめた友もいる。また、大谷の採石場跡の「石の博物館」がリニューアルオープンしたので、見学に入った。うす暗い照明効果で昔の大谷石の採掘場が、「神秘的な宮殿のような風景」を浮かび上がらせていた。地下空間は通年10～15℃くらいに保たれて快適で、コンサート会場やアルコールの貯蔵庫等としても使われているようだ。

今年も11月初旬頃に「人生100年時代を生きる同期会」を開催したいと思う。(文責 岡本)



後列 左から 草薨、小堀、篠原、岡本
前列 大塚 三浦 久保田 以上7名

4 農経13回(昭和40年卒)同級会開催 クラス会

平成29年9月12日から14日の2泊3日の日程で、北海道で14名の参加を得て同窓会を開催した。

今回は北海道在住の大井戸君、高橋君、栗原君の3名が幹事となり、北海道の秋の旨いものが一堂に集まる札幌オータム・フェストに合わせての開催と設定されており、幹事の気配りと行き届いた企画・立案に大いに満足したところです。

初日のホテルでは、オカリナの「北の国から」などの演奏によるオープニングと、心に残る地元の歓迎挨拶に始まり、近況報告や、旧交を温め、夜の更けるまで宴会が続いた。

2日目は、天候が心配されたが、幹事さん方の日ごろの行いの良さが幸いし、行き先で雨を吹き飛ばしてくれ、見学に回ることが出来た。

大倉山ジャンプ台、昼食の札幌大通りのオータム・フェストでは、海の幸をハシゴで食べ歩いた。次いでバスで移動し、小樽運河クルーズなど、市内を観光巡りし、次回また、健康で再会出来ることを楽しみに帰路についた。

(花塚 功先 記)



5 農学科第6回生クラス会報告 クラス会

昭和33年度卒業農学科クラス会を平成29年7月10～11日塩原温泉で開催しました。会場は温泉街の中心部古町の「満寿家」です。参加者は15人。卒業生38人のうち15人が物故者となり、病気治療や体調不良、行事が重なった人以外参加されました。過去22回のクラス会は2日目に観光地や文化遺産など見学会場を設定していましたが、歩行に支障がある人も見受けられたので宴会だけに絞りました。

旅館で受け付けが始まると遠くは秋田、愛知県から駆け付けた級友は「やーやー元気かい」とお互いに声を掛け合って再会を喜んだ。部屋で着替えた後、旅館の周囲を散策したり、簗川沿いの露天風呂に入る人も。午後6時20分から記念撮影して宴会に入った。杯を重ねるにつれて話が弾み60年前の学生生活の話題で盛り上がった。級友は皆傘寿を過ぎており、会話はゆっくりだが一人ひとり心に響く話ばかりだった。

宴の後は同じ会場で舞台を使って「カラオケ」会場に早替り。古い昭和の歌謡曲や現役時代の歌など思い思いにマイクを握った。二次会は幹事の部屋で心ゆくまで懇談した。6回生のクラスは毎年欠かさず今回で23回目となっ

た。来年は群馬県での開催が決まり、1年後の再会を楽しみに翌朝マイカーなどに分乗して温泉街の観光地を巡りながら自由解散した。

幹事 佐藤 清治



6 宇都宮大学農学部農業経済学科 （昭和42年・1967年卒）同窓会（農峰会）開催 クラス会

宇都宮大学農学部農業経済学科同窓会は、隔年ごとに開催し、全国各地から多くの仲間が集まり、旧交を温めています。前回は福島県飯坂温泉、前回は栃木県の塩原温泉で開かれました。今回は平成30年4月7日から8日に山梨県甲府市湯村温泉（開湯大同3年・西暦808年）「武田信玄公癒しの湯」の「柳屋」で倉光剛幹事の尽力のもと、10人が参加し、開催されました。

この日は富士山、南アルプスが峻嶒な姿を見せ、染井吉野の桜と赤みがかった桃の花が私達を温かく迎えてくれました。またこの日は「信玄公祭り」がおこなわれ、甲州軍団二十四将（甲冑姿・騎馬姿）の出陣式も見ることができました。

懇親会では、在学当時の思い出をはじめ、近況報告等々夜遅くまで尽きぬ話に盛り上がりました。話題の中心は、やはり年のせい、健康、趣味に集中。

短い時間ではありましたが、久しぶりに懐かしく、旧交を温めることができました。次回は、宇都宮での開催と再会を約しました。

(神長 記)



7 農業経済学科第16回 〈昭和43年3月卒業〉同級会 クラス会

平成29年9月13日(水)～14日(木)宮城県松島町で20名の参加を得て同級会を開催した。2日間とも好天に恵まれ、セン

ス溢れる楽しい同級会となった。

今回の幹事は宮城県在住の川俣君と猪狩君。細部まで気を配る川俣君と決断力のある猪狩君とのコンビネーションも抜群であった。

お2人、お疲れ様でした。そして有難うございました。

今回は特にこの会を立ち上げた、故及川君を偲び彼の故郷の宮城県での開催となった。初日松島温泉〈絶景の館〉に集結。懇親会となった。まず既に故人となっている、及川・石井・小堀の3君の御冥福を祈り、黙とう。早すぎる別れを惜しみ献杯と続いた。それぞれの近況報告の後、渡辺公之君がマジックを披露。彼のマジック&トークは年々精度が上がり、名人の域に達しており場はさらに盛り上がった。その後全員出席のもと幹事部屋での2次会となった。

飲むほどに酔うほどに楽しさ倍増。それでも1人減り、2人減りとなっていったが最終組は午前4時頃まで続いた(らしい)ちなみに筆者は早々とダウンし良く覚えておりません。翌日は松島観光後解散となった。

次回は2年後(2019年)長野県を会場に桐生君の幹事で開催することに決定した。桐生君よろしく願います。

我々も古希を超えたが、この会を少しでも長く続けていけるよう健康に注意して頑張っていきましょう!

(田村 宏志 記)

今回の出席者(20名)

五十嵐・猪狩・板橋・上野・岡田邦之・川俣・木村・桐生・小平・佐藤・田村・中田・中村・星野・堀越・松澤・松田・山本・渡辺公之・渡辺武夫



農芸化学科19回生クラス会報告

5/10～5/11に八戸クラス会を伊藤ゆりさん幹事で行いました。

参加者は阿部・伊藤ゆり・小川・児玉・斎藤・鈴木節子・高崎・高梨知子・中島・福島・山田にゲスト伊藤正義氏(15回生)の12名。

初日は車3台でドライブ。残雪が所々に見える十和田湖畔を巡り、パークホテルの食事会へ。三好氏差入れの大吟醸酒を酌み交わし大盛り上がりでした。

「捨てがたき書込み数多古曆」の俳句で愛知県教育委員会賞を受賞した斎藤氏の明るい話題も花を添えました。

2次会はゆりさん宅で開催。山菜と美酒と笑顔とで1次会に勝るとも劣らぬ程の盛り上がり。

翌日は蕪島(海猫見物)、種差海岸をドライブ。大満足のうちは無事お開きとなりました。伊藤さんには大変お世

話になりました。

次回は信州か沖縄での開催。高梨さん、高崎氏、仲間氏で調整し決める予定です。元気な笑顔でお会いしましょう。

(H.S 記)



燦々会(昭和39年農業経済学科卒同期会) 第18回会合は東京で開催

2000年(平成12年)秋から毎年全国各地で開催してきている燦々会の18回目の集いは、2017年(平成29年)10月26日(木)から27日(金)にかけて東京で開催されました。今回の参加者は、青柳、岸本、佐々木(重)、鈴木(吉)、篠崎、森山(齊藤)、鈴木(高瀬)、永井、成瀬(懇親会のみ)、藤野、谷口、横山、渡辺の13名でした。

JR上野駅公園口に当日14時に集合し、上野公園内の東京都美術館にて「ゴッホ展-巡りくる日本の夢-」を鑑賞した後、同公園内を散策(上野東照宮等)しながら、宿泊場所である水月ホテル鷗外荘に移動し、夜遅くまで楽しく歓談(夕食入浴等を含む)。

翌日(10月27日)は朝食後、ホテルから東京駅丸の内南口のはとバスのりばへ移動し、隅田川クルージングを含む東京遊覧はとバス半日コースに参加し、国会議事堂-半蔵門-靖国神社-東京スカイツリー(350m及び500m両展望台)を見て、浅草の元祖釜めし「春」にて昼食をとり、東京メトロ銀座線で上野駅に行き、JR同駅正面口で平成30年の再会を約して、お開きとしました。(文責 永井 経39年卒)

なお、燦々会のこれまでの開催地は次のとおりでした。第1回栃木宇都宮、第2回山形庄内、第3回埼玉秩父、第4回東京新宿、第5回静岡浜松、第6回栃木鬼怒川、第7回宮城松島、第8回茨城大洗、第9回秋田田沢湖、第10回栃木湯西川、第11回千葉鴨川、第12回山形蔵王、第13回群

馬伊香保、第14回宮城南三陸、第15回栃木中尊寺、第16回秋田栗駒山、第17回兵庫神戸、第18回東京上野。

10 農業工学科昭和39年入学クラス会 クラス会

私たちのクラス会は、昭和39年入学時の30名で構成され、毎年1回各県持ち回りで開催しています。最近では平成26年栃木（湯西川）、27年福島（裏磐梯）、28年山形（天童）と廻り、29年は10月16日～17日に千葉（九十九里）の「サンライズ九十九里」を会場として開催しました。

1日目、千葉にしては季節外れの寒さと雨の中、新装となったJR千葉駅14時に参加者12名が集合。ホテル送迎バスで会場に向かいました。ホテル到着後は、どこまでも続く九十九里浜と雄大なオーシャンビューを眺められるはずでしたが悪天候のため叶わず。懇親会は次回開催県の決定、お互いの近況報告等で予定時間はたちまち終了。部屋に戻っての2次会では急遽欠席となった新潟の宮坂君より送られてきた「地酒」でまたまた盛り上がり終わったのは深夜12時近く。全員が学生に戻った楽しい時間でした。

2日目は、太平洋から昇る「日の出」も天候の関係で残念ながらダメ。朝食後バスで向かった香取市の「伊能忠敬記念館」では、あまりにも精巧な「伊能図」に感嘆、大学時代の夏の測量実習が頭をよぎりました。

次に「成田山新勝寺」へ。ボランティアガイドさんの案内で寺院内を一廻りし、昼食は成田山門前の老舗「川豊」で美味しい鰻を堪能。JR成田駅で解散となりました。

今回の参加者は青森から山本、山形から梅津、福島から穴澤、茨城から黒駒、栃木から青木、大森、小堀夫妻、神奈川から平野、当番県の千葉から大家、星川夫妻の12名。次回（平成30年）は卒業50周年記念の年にあたり、栃木県（5回目）での開催が決定されました。是非とも多くの会員の出席を期待しています。

最後に、私たち同期会の最大の「誇り」は、会発足以来「30名全員が健在」であることです。これからもこの誇りがいつまでも続くことを祈念してやみません。

（幹事 星川 正晴）



11 農学科第16回生（昭和43年卒） 宇都宮にて開催 クラス会

期 日：平成29年11月12日～13日

毎年持ち回りで開催してきたクラス会も、卒業後50年の節目の年は是非宇都宮でという強い希望があり、何年かぶ

りの宇都宮開催となりました。そのためか近年になく参加者が多く大変盛り上がりました。

2日目は、午前中に大谷資料館を見学した後、母校の宇都宮大学を訪れ、キャンパスを散策しながら昔の思い出にひたることができ、皆大満足でした。また、峰ヶ丘同窓会事務局の方に、新装なった講堂の中を案内して頂き、良い体験をすることができました。

次回、新潟県で会えることを楽しみに散会しました。

参加者：大兼善三郎、大村まさ子、藤重 洋子
菊地 泰、鯨 昭雄、櫻田 宗男
佐藤 征二、下山 俱資、高橋 誉
内藤 陸男、長縄 光延、中村 弘男
橋本 亜英、林 重昭、山辺 守
横田 一郎、八木征四郎（文責） 計17名



12 林学科10回生（昭和37年卒） 第20回同期会を開催 クラス会

今回で20回目となる同期会を下記のとおり開催しました。

と き：平成30年6月26～27日（1泊2日）

ところ：福島県高湯温泉 花月ハイランドホテル

出席者：14名 この他に同伴夫人2名 計16名

大気 満、大沼 綜助、大宮 重義

小野寺 隆、川口 幸夫夫妻、河原田洋三

栗原 知司、柴 征一郎夫妻、松原 弘昌

三浦 俊英、三上 昇、山田 博由

類地 晋明 大金 秀美

今回は、私達同期も、傘寿前後の年齢となったことを踏まえ、これまでとは趣向を変えて、観光視察等は取りやめて、温泉にゆっくりと浸かり、じっくりと腰を落ち着け、旧交を温めるという方式で開催しました。

1日目の午後3時（福島駅前発のホテルの送迎バス乗車）から、2日目の福島駅着午前11時までの、約20時間が旧交を温める場となりました。

懇親交流会の席では、物故者12名の方々に黙祷を奉げた後、会食に入り各人からの近況報告や話題の提供で盛り上げました。二次会は幹事の部屋で行われ、ほぼ全員が参加し12時頃まで話しが尽きない状況でした。ただ酒の量は、ひと頃と比べると少なくなったかなと思われました。温泉には、ほとんどの人が2～3回入浴されたようです。

2年後の同期会は、宇都宮での開催と決め、再会を約して散会しました。（幹事 大金 秀美）



2018(第20回)同期会 平成30年6月26～27日 福島県高湯温泉花月ハイランドホテル

13 第35回生（昭和62年3月卒） クラス会 同窓会報告

平成29年11月18日、ホテルニューイタヤにて30年ぶりの同窓会が開催されました。

これまでも那須塩原、名古屋、大阪等にとってミニ同窓会はあったのですが、今回の発起人の後藤（旧姓小原）女史の呼びかけに女性4名含む20名もの同級生が集まりました。各自言い尽くせない近況報告を江田君が巧みな司会で采配し、持ち寄ったプレゼント交換が終了すると、突如サプライズゲストに生化講座田中先生が。退官記念パーティーに参加したかったと言っていた高橋君感涙に本会プロデュースした大島総監督の力量を一同再確認したのでした。

なお、開催の3か月前から流行のSNSに同級生グループを作り、当時の思い出暴露合戦に思い出の曲リクエスト。これが同窓会の期待を一掃高めると、前日夜行バスで栃木入りした川口君からは日光東照宮一番乗り眠り猫報告、当日学園祭0次会会場からは学生実験棟横芝生からの草野球中継、当時学園祭に出店した農化居酒屋オールナイト21跡、さらには野口女史そっくりな現役農学部生の息子を探し当て撮影、ホテル内宴会場1次会、レストランでの2次会、カラオケ店3次会まで仲間のため実況。参加が叶わなかった片桐、阿藪坊も当日朝の近況を送りあうなど、30年の月日と距離を一気に縮められたような気がします。

次回開催は40年目の10年後2027年、ミニ同窓会を12月食品化学大根サミットにてと決定、田中先生をはじめ皆様の健康を祈念し散会となりました。

当日出席者：野口かほる（相原）、青木 敦隆、
伊藤 佳久、上野 隆久、江田 慶久

大島 祥一、佐藤みどり（岡田）
後藤 康愛（小原）、形田 堅彰（北）
川口 雅司、岩崎 浩美（小菅）、
小林 章男、込山 佳寛、酒井 祥秀
高橋 清隆、土屋 寛記、野中 貴
花岡 裕吉、吉田 誠、吉野 学 20名



14 農芸化学科16回生 クラス会（昭和43年3月卒）クラス会報告

2017年の当クラス会は福島県在住の河野、門馬、木村の3名が幹事団を結成して、10月16日、17日の両日で開催された。第1日目は郡山駅に集合して雨の大内宿、会津鶴ヶ城、黄金色の会津盆地を観光し、東山温泉に一泊して恒例のクラス会を行った。第2日目は会津若松の史跡白虎隊墓、日進館を廻り、猪苗代の野口英世記念館見学、紅葉の磐梯山裾野を眺めて郡山で解散した。某幹事友人の観光バスで全行程を経巡り、サービス満点、快適でした。

参加者は、伊東哲夫、榎本晃一、柴田武志、清水 修、染谷省三、田中秀幸、渡嘉敷義浩、橋本俊一、門馬忠昭、河野郷、木村哲夫、（以下は夫人同伴）大滝 薫、高梨俊治、樋浦康一郎、森正克英の19名でした。次回は、卒業50周年を記念して、栃木宇都宮で開催の予定。（木村 記）



皆様からのお便りを

お待ちしております。



学生支援制度報告

IUNS 21st ICN International Congress of Nutrition に参加して

農学研究科 生物生産科学専攻 動物生産学講座

栄養制御学研究室 修士2年 志賀加奈

私は10月15日から20日にアルゼンチン・ブエノスアイレスで開催された、International Congress of Nutrition (IUNS 21st ICN) に参加しました。本学会は1946年以降4年ごとに開催されており、本年度は「科学から栄養へ」というモットーに基づき、国際的な多文化環境における様々な栄養問題に取り組むことを目的として開催されました。私は、“Functional Foods and Bioactive Compound”分野で“Analysis of the mechanism of isoleucine induced glucose uptake into skeletal muscle”というタイトルでポスターセッションを通し研究成果を発表いたしました。

私が取り組んでいる研究で着目している必須アミノ酸の一種であるイソロイシンは、分岐鎖アミノ酸 (BCAA) として知られています。イソロイシンは骨格筋での血中グルコース取り込みを促進させることで、血糖値を低下させる作用を持つことが知られています。今回の発表では、動物の骨格筋や筋細胞を用いて、イソロイシンのグルコース取り込みに関与する分子機構の解析結果を発表いたしました。

ポスターセッションを通し、専門内外、外国の方々で議論させていただきました。初めての国際学会であり、私が

思った以上に英語で伝えることや、訛りのある英語を聞き取る事に苦戦しました。国際学会ならではの感じる事だと思いますが、自身の研究を伝えるためのツールとしての英語力の重要性を痛感しました。それだけではなく、研究に興味を示してくださった方々の質問や意見、シンポジウムの拝聴はとても貴重なものになりましたし、それが今後の研究のブレークスルーにも繋がったと思います。

今回のICNが開催されたブエノスアイレスは、南米のバリと言われるほどの美しい街並みでした。巨大な三角江があるラ・プラタ川に面し、フランス語で「良い (ブエノス) 空気 (アイレス)」という意味を持つ首都です。日本とは異なる文化、街並み、人柄に触れ、学会を超えた様々なことを学び、感じる事ができました。

最後になりますが、このような地での学会発表という貴重な経験に支援してくださった峰ヶ丘同窓会の皆様にご心より御礼申し上げます。



アジア獣医解剖学会に参加して

農学研究科 生物生産科学専攻 動物生産学講座

動物機能形態学研究室 修士2年 林美紗

私は2017年10月15-16日にマレーシアのクチンで行われた The 6th Congress of Asian Association of Veterinary Anatomists (AAVA) に参加してきました。

この学会は、獣医解剖学や動物形態学など様々な分野の研究者が集まる学会です。

私は“Distribution of the mechanoreceptors in the beak of Japanese Jungle crow” (ハシブトガラスの嘴における機械受容器の分布) というタイトルでポスター発表をさせて頂きました。鳥の嘴はヒトの手や唇のように触覚を受け取る触覚感覚器と言われており、嘴の皮膚には触覚刺激を受け取るセンサー (機械受容器) が存在していることや、嘴には機械受容器から刺激を脳へ伝達する神経が通っていることが知られています。今回の研究では、嘴の皮膚に存在している機械受容器がどのように嘴に分布しているのか未解明であったため、ハシブトガラスを用いて、嘴には機械受容器がどの部分に多く分布しているのか、またどんな種類の機械受容器が嘴に分布しているのかについて発表させていただきました。

英語での研究の説明は難しかったですが、インドネシアや韓国などの外国の人たちに伝えたいという一心でプレゼ

ンやディスカッションをしていました。拙い英語でしたがなんとかコミュニケーションを取ることができ、外国の研究者の方達から私の研究に大変興味を持っていただけました。その結果、光栄なことにポスター発表賞を受賞することが出来ました。興味を持っていただけただけでもとても嬉しいですが、賞を取れたことで大きな自信となりました。

今回の学会参加で、日本や海外の研究者、学生とたくさん話すことができ、知り合いもたくさん出来ました。また、マレーシア観光名所 (文化村、オラウータンの自然保護センター) なども回ったり、マレーシアの食べ物をたくさん堪能したり出来てとても楽しむことができました。

今後も研究活動や発表等を通して、日々精進していきたいと思っています。

最後になりましたが、研究指導をしてくださった杉田先生、楽しい研究室生活を共に過ごしてくださっている研究室の方々、そして国際学会への参加にあたり、峰ヶ丘同窓会のご支援にご心より感謝致します。



平成30年度理事会報告

平成30年6月16日(土)13時00分より、宇都宮市内ホテルマ イステイズ9 Fルシルにて平成30年度理事会が開かれた。以下に項目別に議事内容を記載する。

1. 開会 (13時)

司会の小笠原勝常任理事より、構成員127名のうち、主 席者50名、委任者26名、合計76名で、会議が成立している ことが報告された。

2. 物故者への黙祷

理事会の開催に先立ち、物故者への黙祷を行った。

3. 同窓会会長挨拶 (13時05分)

和賀井睦夫同窓会会長から、同窓会の現状について、国 内の47都道府県に同窓生がおり、うち41の都道府県に支部 会があり、毎年10以上の支部会が開催されていることが説 明された。また、峰ヶ丘講堂が昨年の6月に登録有形文化財 (建造物)として登録され、これを記念して記念プレートが今年 の1月15日に講堂の玄関脇に設置されたことが報 告された。本講堂は大正13年に建てられ、平成21年に同窓 会の協力により修復され、今後は宇大の象徴として大事に 守り継がれていくと説明があった。

4. 会長選出

議長は慣例により、満場一致で、和賀井同窓会長が選出さ れた。

5. 会務報告

杉田昭栄理事長より会務に関して報告がされた。支部会 総会合計12件、常任理事会11件、宇都宮大学各学部同窓会 連絡協議会2件、学生評議員会などその他の行事6件、同 窓会会報155号および会員名簿の発行、支援制度としては 学部長表彰1件、学生支援制度13件があったことが報告さ れた。

質疑などは特になかった。

6. 平成29年度決算報告及び監査報告

安藤益夫会計担当理事より平成29年決算報告があった。 歳入については、新学部への定員処出により農学部への新 入生の減少、および超低金利により利子収入が非常に少な いため、会費が減少していること、基本財産特別会計から 一般会計への繰出しが行われたことが報告された。歳出に 関しては、ほぼ例年通りであるが、昨年の理事会懇親会 の参加者が少なかったため、実質支出も若干少なめであつ たことが報告された。その後、稲見定幸監事より、田中秀夫 監事および立壁敏夫監事とともに、理事会に先立って行わ れた監査にて、通帳や帳簿類を確認し、適正に運営されて いる旨、報告された。質疑は特になく、拍手によって承認 された。



会 議 全 景

7. 役員改選

平成30・31年度の理事について、すでにブロック別の選 挙が行われており、資料に結果が記載されていることが報 告された。次いで、会長および副会長の人事に関して、杉 田理事長より説明があり、各学科の理事から代表を1名選 出し、選任された理事、杉田理事長とともに別室にて協議 した。その後、新会長は松澤康男氏、新副会長は山口幸志 氏にお願いしたい旨報告され、拍手により承認された。ま た、理事長、常任理事については、新たに、理事長は田坂 聡明氏、常任理事は福井えみ子氏、金野尚武氏、守山拓哉 氏を委嘱することが会長より提案され、拍手を持って承認 された。

8. 平成30年度事業計画(案)

杉田前理事長より、1) 理事会の開催、2) 常任理事会 の開催、3) 新入生歓迎会の開催、4) 「峰ヶ丘会報」の 発行、5) 各支部総会への出席、6) 農学部への協力支援、 7) 学生評議員の開催、8) 「学生支援制度」の実施、9) 教員会員への「教育支援制度」の実施、10) 大学諸行事の 協力、11) その他(大学等への支援)を事業として行うこ とが提案され、拍手により承認された。

9. 平成30年度予算(案)

安藤会計担当理事より、一般会計、基本財産特別会計、 名簿発行特別会計予算案が説明された。一般会計の歳入に おいて、入学者数の減少および超低金利の影響による利子 収入の大幅減少していることを説明した。また、一般会計 の歳出は、例年通りであることが報告された。基本財産特 別会計では、一般会計への繰出しが予定されていること、 名簿発行特別会計では、一般会計からの繰入れが予定され ていないことが報告された。質疑は特になく、拍手によっ て承認された。

10. 同窓会会則・事務規程の改正

杉田前理事長により、会則および事務規程の最終改正は 15年前で、現状に沿っていくつかの改正を行ったことが説 明された。同窓会会則については言語の訂正と評議員の項 目を追加したことが報告された。事務規程については文章 の訂正と理事及び幹事選挙について削除と追加項目したこ とが報告された。質疑応答では、宇田靖理事より、会計規 程に言語と条番号の記載間違いがあったことが指摘され、 文字等の訂正は速やかにする旨が説明された。次いで上野

武二理事から、事務規程の第2章第9条の6の内容について、「年令の多い者を当選者とする」という説明は必要ないのではないかとの質問があった。これについては、投票数と卒業年次が同じになる可能性があり、その場合、卒業年次の早い者を当選者とする、と訂正することが説明された。また、國谷渡理事が会則第4章第22条について、一般会計が不足の場合、基本財産特別会計一般会計へ繰入れると記載すべきではかとの提案があった。田坂聡明新理事長が、特別会計は、一般会計の余剰金により構成し、不足が生じた場合は、一般会計へ繰入金に充てる案を、今後の常任理事会において検討することが説明され、変更案が承認された。最終的に、会場からの拍手をもって承認された。



夏秋農学部長と和賀井前同窓会長

11. その他

和賀井前同窓会会長へは、宇都宮大学石田朋靖学長から預かってきた感謝状を、杉田前理事長が代読して渡し、同窓会から、和賀井前会長と竹永前副会長へ、花束と記念品が贈られた。両氏の挨拶をもって、15時5分に閉会した。

理事会終了後、同ホテル内9Fの会場にて、小笠原勝庶務担当理事の司会により懇親会が開催された。夏秋知英農学部長から祝辞をいただき、農学部から和賀井前会長へ感謝状が渡された。その後、星一美理事による乾杯の音頭で開宴となり、歓談後杉山栄理事による万歳三唱にて閉会した。



竹永前副会長

会務報告

1. 支部総会等の開催

- 2017. 7. 8 茨城支部総会
- 2017. 8. 19 静岡支部総会
- 2017. 8. 4 富山支部総会
- 2017. 8. 24 山梨支部総会
- 2017. 9. 4 栃木県庁支部総会
- 2017. 10. 7 宮城支部総会
- 2017. 10. 28 岩手支部総会
- 2017. 11. 16 群馬支部総会
- 2017. 11. 23 福島支部総会
- 2017. 11. 25 秋田支部総会
- 2017. 12. 2 高校教職員連絡会
- 2018. 1. 28 埼玉支部総会

2. 常任理事会等の開催

- 2017. 7. 12 第1回常任理事会及び引継会
- 2017. 9. 22 第2回常任理事会
- 2017. 9. 25 第1回宇都宮大学各学部同窓会連絡協議会
- 2017. 10. 11 第3回常任理事会
- 2017. 11. 15 第4回常任理事会
- 2017. 12. 13 第5回常任理事会
- 2018. 1. 15 第6回常任理事会
- 2018. 2. 21 第7回常任理事会
- 2018. 2. 27 第2回宇都宮大学各学部同窓会連絡協議会
- 2018. 3. 7 第8回常任理事会
- 2018. 4. 18 第9回常任理事会
- 2018. 5. 21 第10回常任理事会
- 2018. 6. 11 第11回常任理事会
- 2018. 6. 16 平成30年度理事会

3. その他の行事

- 2018. 1. 24 学生評議員会
- 2018. 3. 23 宇都宮大学卒業式
- 2018. 4. 4 宇都宮大学入学式
- 2018. 4. 4 農学部新入生保護者説明会
- 2018. 4. 9 新入生歓迎会
- 2018. 5. 9 平成29年度会計監査

4. 「峰ヶ丘同窓会報」の発行

- 2017. 7. 10 第155号発行
- 2017. 11. 27 平成29年度版会員名簿

5. 支援制度

教員教育研究支援制度（農学部栄誉賞） 計1件
 学生支援制度
 （学費支援1件・海外学会支援3件・農学部栄誉賞9件）
 計13件
 以上会務報告

会長委嘱理事（平成30年度）

- | | |
|--------------|---------------|
| 理事長 | ○田坂 聡明（林52） |
| 常任理事 生物資源科学科 | 小笠原 勝（農54） |
| | ○福井えみ子（院畜62） |
| | 岩永 将司（生応H8） |
| 応用生命化学科 | ○金野 尚武（生化H16） |
| 農業環境工学科 | ○守山 拓弥（院環H16） |
| 農業経済学科 | 安藤 益夫（経54） |
| | （○印：新任） |

平成30・31年度理事・監事

XXXXXXXX 支部長一覽 XXXXXXXX

理事（51名）

鴨志田 敬（農30）	黒後 貞夫（経H7）
小島 守夫（農37）	和久井保彦（経H13）
前田 忠信（農42）	櫻井 亮（経H15）
木村 陽一（農50）	鶴牧 孝雄（畜28）
中山 喜一（農56）	植木 保夫（畜40）
川口 桂市（農55）	増山 文男（畜53）
川原 直人（生植H7）	押久保 徹（畜57）
上田 正人（生応H8）	横山 晃子（生動H9）
鷺尾 一広（生応H7）	星 一美（生動H11）
貝賀 信保（生応H9）	上野 武二（工32）
九鬼 レイ（生植H27）	大野 敬治（工39）
木村 繁（林31）	福田 靖夫（開54）
杉山 栄（林36）	関根 忠雄（開57）
小松 茂夫（林45）	荒井 真一（開58）
館野 知（林53）	五月女寛行（環H7）
金田 佳隆（林50）	森島 史明（環H25）
津布久 隆（林58）	加藤 秀正（化40）
篠崎 武彦（森H7）	宇田 靖（化45）
小川 靖（森H13）	杉田 和之（化50）
早川 宙（森H21）	下山 雅人（化52）
五味仙衛武（経23）	本島 俊明（化57）
伊澤敬一郎（経29）	大山 亮（生化H19）
平塚 俊郎（経49）	高瀬 貴仁（生化H15）
関川 元樹（経50）	田崎 公久（生化H10）
國谷 渡（経51）	高橋 廣美（総42）
野口 隆夫（経55）	

監事（3名）

富田平四郎（工41）
石塚 正恵（畜47）
川上 淳（生植H8）

平成30年度事業計画

1. 理事会の開催
2. 常任理事会の開催
3. 新入生歓迎会の開催
4. 「峰ヶ丘会報」の発行
5. 各支部総会への出席
6. 農学部への協力支援
7. 学生評議員会の開催
8. 「学生支援制度」の実施
9. 「教育研究支援制度」の実施
10. 大学諸行事の協力
11. その他

○会員数及び会費納入状況

(大正15. 3卒～平成30. 3卒)

会 員 数

	旧 制	新 制	計
卒業者数	3,559	15,214	18,773
物 故 者	2,726	1,072	3,798
現会員数	833	14,142	14,975

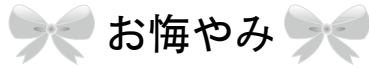
会費納入状況

	旧 制	新 制	計
現会員数	833	14,142	14,975
納入者数	695	11,531	12,226
納 入 率	83.43%	81.53%	81.64%

○在学生会員数及び会費納入状況

(平成27. 4入学～平成30. 4入学)

・在学生数：学部：853人・大学院：123人 976計人



下記の方々のご冥福をお祈り致します。
平成29年9月～平成30年6月現在までの物故者
(H：平成)

※事務局で把握しているものの掲載です。

農学部

- | | |
|------------|-------------|
| 農14：佐藤 賢三 | 農16：小倉 千尋 |
| 農17：郷間 富二 | 農17：吉川 正 |
| 農19：小澤 榮 | 農20・21：後藤 洋 |
| 専農21：手塚 和美 | 農22：野口 金仁 |
| 農22：渡辺日出男 | 農22：山中 道勇 |
| 農22：昆野 昭晨 | 農23：山崎 剛毅 |
| 農26：星野 亀夫 | 農26：加藤喜重郎 |
| 農26：赤羽 勝 | 農28：阿部 光三 |
| 農28：斉藤八五郎 | 農30：岡部 健一 |
| 農30：鈴木 秀男 | 農30：鴨志田 敬 |
| 農30：伊藤 俊一 | 農30：篠原勝三郎 |
| 農32：小沼 隆 | 農32：古田土 通 |
| 農32：阿久津喜作 | 農33：岡田 明男 |
| 農33：岡本 治房 | 農34：小森 嘉行 |
| 農34：関谷 武夫 | 農37：伊藤 貞夫 |
| 農43：山本 泰由 | 農43：山田 孝 |
| 農49：植竹 博 | 農56：佐藤 幸宏 |

林学科

- | | |
|-----------|-----------|
| 林 8：真家 四郎 | 林14 片岡 芳男 |
| 林15：渡部源一朗 | 林17：島崎重一郎 |
| 林18：皆川 勝治 | 林22：平岡 道哉 |
| 林22：遠藤 昌亘 | 林24：中村 弘道 |
| 林24：國分 和夫 | 林29：畠山 英雄 |
| 林29：田中 公従 | 林30：松本 真一 |
| 林30：天野 隆永 | 林34：相馬 俊雄 |
| 林38：盛 良二 | 林40：鈴木 康之 |
| 林44：高橋 文敏 | 林51：高橋 等 |

農業経済学科

- | | |
|-----------|-------------|
| 経15：豊田 謙治 | 経16：伊藤 平 |
| 経18：横田 一男 | 経19：島野 公良 |
| 経19：酒寄善兵衛 | 経20・21：篠崎 淳 |
| 専経21：今井 宏 | 経23：関 辰二 |
| 経24：岡田 毅 | 経24：岡本 博 |
| 経25：内田 昭輔 | 経30：宇賀神治夫 |
| 経30：伊東 愛夫 | 経59：鈴木 丈夫 |
| 経 7：渡辺 嘉二 | |

獣医畜産学科

- | | |
|-----------|-----------|
| 獣17：林田 仲男 | 獣20：斎藤 利和 |
| 獣22：渡辺 三昌 | 獣22：宮坂 長男 |
| 獣22：粕谷 良一 | 獣23：伊佐山康郎 |
| 獣24：平井鉄之助 | 獣25：渡沼 恵司 |
| 畜28：飯野 弘 | 畜35：橋本 昌義 |
| 畜36：宮本 昂 | 畜48：大島 勝美 |

農業工学科

- | | |
|-----------|-----------|
| 土18：中村 武蔵 | 土22：船門 清彦 |
| 土22：三村 敬一 | 土23：中野 敏夫 |
| 土23：宮下 公正 | 土24：森尾 正一 |

- | | |
|-----------|------------|
| 土24：武田 義昭 | 土25：斉藤 邦男 |
| 土26：野中 誠 | 土26：青木 登 |
| 土26：斉藤 利之 | 土26：荻原 成元 |
| 工28：宇梶 文雄 | 工28：中茎 孚臣 |
| 工30：吉井 良 | 工34：原 耕造 |
| 工34：根岸 勝見 | 工35：篠田 伊十 |
| 工36：笠原 滋 | 工37：斎藤 尚 |
| 工39：安達 栄内 | 工40：久松 淳補 |
| 開45：近藤 善信 | 開46：笠井 純 |
| 開H 1：竹内 正 | 開H 4：角保 彰紀 |

農芸化学科

- | | |
|------------|-----------|
| 化23：鈴木 元 | 化24：岡村 賢治 |
| 化25：水沼 潔 | 化26：柵木 教本 |
| 化31：琴寄 融 | 化33：須藤 和義 |
| 化34：和田 義之 | 化35：峯 功一 |
| 化36：牧野 晃 | 化38：大嶋 幸雄 |
| 化41：長谷川 博 | 化45：瀬田 智之 |
| 化60：小野里佐知子 | |

総合農学科

- | | |
|------------|------------|
| 総農31：山田 幸二 | 総農40：山田 幸一 |
| 総30：泉田 七郎 | 総35：相良 功 |

慶弔についてのご連絡

峰ヶ丘同窓会会員の慶事および弔事の際には、会員の
方々からのご連絡に基づいて対応しております。慶弔事が
発生しました際には、下記事務局までご連絡ください。

I. 慶事（褒賞、叙勲等）の場合

1. 受章者、受賞者の氏名、卒業年次、学科
2. 受章、受賞の種類（褒賞、叙勲その他の賞の種類）
3. 受章、受賞の日時

なお、叙勲のご連絡は、新聞などに掲載されますが、学
歴まで記されておきませんので、事務局で判断し掲載する
ことができません。関係各位からのご連絡により、ご報告
とさせていただきます。何とぞご了承のほどをお願いいた
します。

II. 弔事の場合

会員、会員以外の顧問・元顧問、現職教員、元教員が
対象となります。

1. 逝去者の氏名、逝去日、卒業年次、学科
2. ご遺族（喪主）の氏名（逝去者との続柄）
3. 通夜・告別式の日時、場所

なお、事務局宛にご連絡がない場合、当方からの郵便物
の送付を中止できませんので、何とぞご了承のほどをお願い
いたします。

●連絡先：峰ヶ丘同窓会事務局
TEL：028(649)5400
E-mail：minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp
月・水・金 9：00～17：00

お祝い

このたびは、おめでとうございます。

就任

山形県鶴岡市長 (H29.10.23就任)	皆川 治
経H 9	
福島県伊達市長 (H30. 2.12就任)	須田 博行
開 56	

叙勲

2014年秋 瑞宝双光章	土 22	中澤 國夫
2016年春 勲二等旭日重光章		
	畜 38	吉田 公一
2017年春 瑞宝小綬章	経 46	井本 久夫
2017年秋 瑞宝小綬章	農 39	中村 修

受賞

第18回日本菌学会教育文化賞受賞
化 41 広井 勝

昇任

園田 昌司 (農学部教授)

農学部栄誉賞

教員

農学部栄誉賞 哺乳類学会2017年度奨励賞 栗原 望

学生

第20回日本ペット栄養学会最優秀発表賞	佐藤あかね
第6回アジア獣医解剖学会優秀発表賞・ポスター賞	
	林 美紗
第14回学生&企業研究発表会あしぎん賞	朝川 志帆
第14回学生&企業研究発表会金賞	石原 綾夏
H29年度農業農村工学会関東支部奨励賞	松浦 麻希
8th Asia and Oceania Conference on Photobiology	ポスター賞
	藤井 雄太

宇都宮市大学生によるまちづくり提案2017第2位

第68回木材学会大会優秀ポスター賞	狩野 菜々 他5名
木材学会優秀ポスター賞	山崎 実紅
第17回新規森林探索研究会奨励賞	菊池 雅子
日本菌学会第62回大会学生優秀口頭発表賞	小野 晶子
	細野 天智

寄贈図書

- 「道具を使うカラスの物語」 (畜51) 杉田 昭栄
 - 「カラス学のすすめ」 (") " "
 - 「泣かないチヨ」 (農46) 山口 幸志
 - 「農学科第3回卒業生 近況報告」 (農30) 鴨志田 敬
- ※鴨志田様は2018年8月にご逝去されました。
謹んでお悔やみ申し上げます。

お詫び

訂正

P.22 お悔やみ
誤 農業工学科 土22 谷畑 實様
正 ご存命
大変失礼いたしました。訂正してお詫びいたします。

次回会報発行日程 原稿締め切り日のお知らせ

同窓会では、皆様からの情報をお待ちしております。次号会報の発行は、2019年8月上旬の予定です。原稿の締め切りは、2019年4月30日となりますので、宜しくお願いたします。

大学イベントのお知らせ



宇都宮大学オリジナルキャラクター「宇〜太」

- 平成30年度秋季オープンキャンパス
平成30年10月27日(土)
- 平成30年度大学祭
平成30年11月23日(金)・24日(土)
- 第5回ホームカミングデー
平成31年11月23日(土)

※大学70周年式典も同時開催される予定です。

詳細につきましては、大学の公式ホームページ、FacebookやTwitterをご覧ください。

編 集 後 記

島根県西部地震、大阪府北部地震、北海道胆振東部地震また、平成30年7月豪雨と台風12・21号によって被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。この度、峰ヶ丘同窓会執行部は松澤康男会長(農41)を迎えた新体制となりました。会員の皆さんの声を反映させた運営、会報作りを心掛けておりますので、御意見・御要望・御感想を頂ければ幸いです。(岩永 将司)

農学部100周年記念事業について

2022年、農学部は 創立100周年を迎えます。



宇都宮大学農学部は、その前身である宇都宮高等農林学校が1922（大正11年）に設立されてから100年目を迎えようとしています。そこで、これまでの歩みを振り返り、次の100年への大きな発展の契機とするため、農学部100周年記念準備委員会を立ち上げました。峰ヶ丘同窓会も、100周年の喜びを同窓生と盛大に分ち合えるように、農学部と密接に連携しながら100周年記念事業に協力していくことにしています。今回、「宇都宮大学3C基金ご案内」を同封させていただきましたので、宇都宮大学の宇大スピリット3C精神（Challenge・Change・Contribution）にご賛同いただき、応援していただけますと大変有難く存じます。

日本の農学の発展の一翼を担って一世紀。宇大農学部はいよいよ創立100周年を迎えます。学部をあげて100周年を祝う準備に取り掛かっています。100周年記念事業として、未来の農学を担う優秀な若い人材向けの奨学基金の創設、フランス式庭園のような新たな農学部のシンボルの作成（紅葉する樹木を植林して空から見える文字を附属演習林に描く）、在学生と同窓生の集いの場の創設（大谷石造りの旧図書館の改修）、100年を振り返る写真集の作成、農学部100周年の幅広いアピールのための街頭フラッグの設置などを計画しています。宇大農学部の未来がより輝かしいものになるよう、皆様の3C基金へのお力添えをお願い申し上げます。

（文責：農学部100周年記念準備委員会委員長

農学部教授 吉澤 史昭）



昔の写真募集中

宇都宮大学での思い出の写真、学生時代の懐かしい行事写真、大学縁の品の一枚など、引き出しに眠っている古い写真はありますか？

峰ヶ丘同窓会では、貴重な資料として保管するとともに、皆様にご覧いただけるように計画しています。

もし、同窓会に寄贈いただける写真がありましたら、以下までお送りください。

2022年（平成34年）4月30日まで募集しています。

〒321-8505

宇都宮市峰町350 宇都宮大学内

農学部峰ヶ丘同窓会 あて

お問い合わせ：028-649-5400 峰ヶ丘同窓会事務局

月・水・金 9：00～17：00

minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp



こんなこと

やっています (その12)

農業経済学科

農業経済学科の私の研究室では、3年生後期でゼミプロジェクトを実施しています。2017年度は、「こども食堂からふれあい食堂へー地域の人と食が集まるふれあい食堂を実現させるローカルフードシステムー」としてまとめ、宇都宮市の大学生による市政提案に応募し優秀賞を受賞しました。

今回のゼミプロジェクトでは、アンケートやインタビューを中心に調査を実施しました。宇都宮市農政課の試算によると宇都宮市の野菜の自給率は25%と僅かでしたが、直売所での消費が反映された今回の調査では48%となり、さらに流通網のある近隣5市町を含めた地域自給率は60%に上りました。この結果から、宇都宮市民は周辺の農業地帯に支えられた豊かな食生活が享受できる環境にあることが明らかになりました。一方、販売面での対応は十分とは言えず、地産地消推進店として選定されている店でも、積極的に地元産農産物を販売する体制が整えられておらず、地産地消を進めるメリットも市民に十分に理解されていませんでした。また、市内の子ども食堂への調査から、食の問題は子どもだけでなく、経済格差だけでなく、独居老人や単身者、さらにワークライフバランスに悩む子育て世代など多くの市民に関わる問題でもあることが捉えられました。

こうした結果をもとに、ふれあい食堂を拠点とした食と農をむすぶ仕組みを提案しました。ふれあい食堂では、ボランティア市民が活躍します。食堂の運営・調理だけでなく、農家から提供される余剰農産物の運搬や農家での作業の手伝いなどにも一役買います。このような地域で食を囲む場が実現することで、誰にとっても身近な日常の食を見直すことから、地域の様々な問題解決につながることを期待できます。

(文責：農業経済学科 准教授 西山 未真)



市長への説明▶



◀宇都宮市表彰集合

農業環境工学科

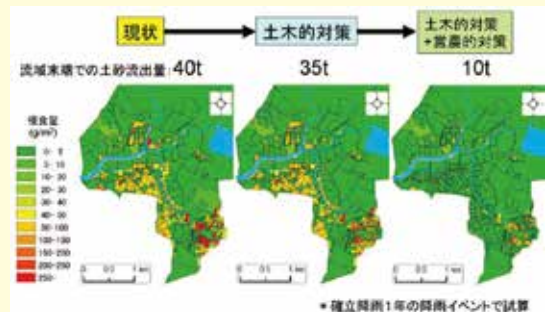
私の主な専門分野は農地工学です。農地工学とは、農業活動が自然環境へ大きなインパクトを与えている現況に対応して、農地および水・土壌の適切な管理・保全技術を科学的根拠に基づいて確立させることを目的とした学問です。以下に私が現在進めています沖縄地方における赤土流出に関する研究を紹介いたします。



赤土流出とは、農地の表土が激しい降雨によって侵食を受け、土壌や土壌に含まれる肥料成分等が河川や沿岸域へ流出し、サンゴ等の生態系に大きなインパクトを与えているという現象です。農地における土壌保全型農業に関する研究や河川や海域における物質循環に関する研究を現地観測、人工降雨装置などを用いた室内実験、コンピュータを用いた数値シミュレーション等を駆使して実施しています。成果の一例として、沖縄県石垣島における流域において、水や土砂の動態を評価する数値シミュレーションを実施し、その現況を評価するとともに、勾配修正等の土木の対策や不耕起栽培等の営農的対策を想定した土砂流出量の削減効果を評価しました(下図)。

この問題の解決のためには、研究者による活動のみでは不十分であり、企業、行政、そして地域住民との連携を図りながら取り組むことが不可欠です。地域の生物資源、観光資源であるサンゴの持続的な再生・保全を行うためには、農業だけではなく社会も環境保全型にシフトさせる必要があります。赤土の主な発生源である農地における対策にかかる費用や労力などを社会全体でサポートする体制作りが必要なのです。例えば、サンゴ礁の保護基金を設立し、募金や企業からの寄付を集めたり、観光客から「観光税」を徴収したりする仕組みを作ることによって、地域の農業を経済面でも支援することが問題の解決には欠かせないプロセスとなります。このように、環境問題には複雑な相互関係やジレンマがあり、科学的技術だけでは解決できない場合が多いので、今後、研究者以外の機関とも連携を深めつつ研究・教育・地域貢献活動に励みたいと思っております。

(文責：農業環境工学科 准教授 大澤 和敏)



石垣島の流域における赤土流出の数値シミュレーション(赤色ほど侵食量大きい。土木の対策と営農的対策を合理的に組み合わせることで、効果的に赤土流出量を削減可能。)

フライング用中心点▶